

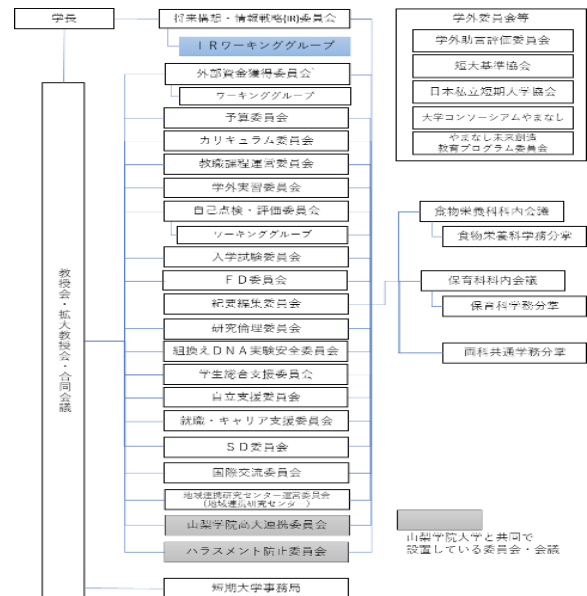
山梨学院短期大学における教学 IR (Institutional Research)

IRとは

IR (Institutional Research) とは、自組織の置かれている状況についての調査研究のことを指します。IR は様々なデータの入手や分析と管理、戦略計画の策定、プログラムのレビューと点検など包括的な内容が含まれます。大学における IR とは、大学自らの置かれている客観的な状況について調査研究することであり、一般に、教育、研究、財務等に関する大学の活動についてのデータを収集・分析し、大学の意思決定を支援するための調査研究を指します。(文部科学省中央教育審議会大学分科会「大学のガバナンス改革の推進について」(審議まとめ)(平成 26 年 2 月 12 日))

本学の IR

本学では、学長の意思決定のための諮問機関として、中長期的視点かつ総合的展望による、本学の教育、研究及び管理運営全般に関する重要事項について、審議、検討することを目的として「将来構想・情報戦略 (IR) 委員会」を設置しています。そして、この目的を達成するために当該委員会の元に IR 部署 (IRWG) を設置しています。IR 部署では、学生の学修成果等に関する情報の収集・分析、本学の状況に関する情報の収集・分析等、将来構想・情報戦略 (IR) 委員会から依頼された IR 業務を行います。



IR 体制

IRWG は、将来構想・情報戦略 (IR) 委員会の依頼を受け、以下の流れで IR 活動を行います。関連委員会 (FD 委員会、就職・キャリア委員会、入試学試験委員会等) と協働して調査活動・データ収集を行い、収集されたデータは、IRWG にて分析します。調査結果は、将来構想・情報戦略 (IR) 委員会に提供され、意思決定に役立てられます。また、本学全専任教職員が参加する拡大教授会においても、調査結果に基づく審議が行われます。

IR 調査研究の計画

以下は IR 調査計画の年間計画です。このほか、将来構想・情報戦略（IR）委員会の依頼で調査研究を随時行います。

	データ収集	分析	報告
4月	入学時意識調査実施（学生総合支援委員会と連携）	入学時意識調査結果分析	後期学修時間・学修行動調査分析結果報告 入学時意識調査分析結果報告
5月			卒業生満足度調査分析結果報告
6月			
7月	新入生 IR 調査実施（入試委員会と連携） 学修時間・学修行動調査実施（学生総合支援委員会と連携）		
8月	前期授業評価アンケート実施（FD 委員会と連携）	新入生 IR 調査結果分析 学修時間・学修行動調査結果分析	
9月		授業評価アンケート結果分析	新入生 IR 調査分析結果報告 学修時間・学修行動調査分析結果報告
10月			授業評価アンケート分析結果報告
11月	卒業生調査・就職先調査実施（就職キャリア委員会と連携）		
12月	入学者追跡調査実施（入試委員会と連携）	入学者追跡調査結果分析	入学者追跡調査分析結果報告
1月		卒業生調査・就職先調査結果分析	
2月	後期授業評価アンケート実施（FD 委員会と連携） 後期学修時間・学修行動調査実施（学生総合支援委員会と連携）		卒業生調査・就職先調査分析結果報告
3月	卒業生満足度調査実施（学生総合支援委員会と連携）	後期授業評価アンケート結果分析 後期学修時間・学修行動調査結果分析 卒業生満足度調査結果分析	後期授業評価アンケート分析結果報告

各種データ

各調査結果の詳細は本学 HP の「情報の公表」「自己点検・評価報告書」「授業評価」をご参照ください。

教学 IR をきっかけとする教学改善の事例

教学 IR をきっかけとする教学改善の事例の一部を以下に紹介します。

年度	IR 結果	改善内容
2016	学修行動・学修時間調査において、授業外学習時間の平均が週 2 時間であった（参照： AP 成果報告書 ）。	全学生に iPad を配付するとともに LMS を導入し、授業外学習に取り組みやすい環境を整備した。
2016	卒業時満足度調査において、「何らかの方法で地域に貢献していきたいという思いが身に付いたか」など地域貢献に関する満足度が低めであった（参照： AP 成果報告書 ）。	全学的にボランティア・パスポートを導入するとともに、教育サービス活動の単位化など教育課程の見直しを行った。
2021	授業別成績確認調査において、授業によって ABC の数に偏りがあった。	成績評価基準を明確化し、毎年度、成績評価の偏りを確認する仕組みを導入した。
2021	卒業生就職先調査において、「学修成果証明書」の改善意見があった（参照： 卒業生就職先調査 ）。	学修成果証明書の様式を見直した。
2022	入学者追跡調査において、入学者選抜方法により学修成果の獲得状況に大きな偏りはないことが確認された（参照： 自己点検・評価報告書 ）。	2023 年度に入学者選抜方法の見直しが行なわれるが引き続き追跡調査を行いその効果を確認していく。
2022	学修成果の獲得状況の調査において、「言語的・数量的処理の方法や自然科学への理解を深め、論理的視点から物事を考えることができる」の GPA が全学的に低いことが確認された（参照： 自己点検・評価報告書 ）。	数理・データサイエンス・AI 教育プログラムを構築し、2023 年度から導入することとした。
2023	入試 IR 調査において、本学の学生は、専門職に就きたいという想いを中学生のころから抱いていることが明らかになった。また系列高校出身の学生については在学時に食や保育に関わる選択科目を履修している者が一定数いることが分かった（参照：入試 IR 調査報告）。	次年度、高校学校の選択科目の履修状況について、系列高校以外の高等学校出身の学生に関するデータを収集することとし、高大連携の在り方を見直す示唆を得た。
2023	学修時間・学修行動調査の中から特に学修行動・アルバイト・睡眠時間についての分析がなされた。入学前・1 年生・2 年生と学年が上がるにつれて学修時間が減少しアルバイト時間が増加する科もあった（参照：学修行動・アルバイト睡眠時間の分析）。	2 年間の授業配置を見直すうえで重要なデータとなった。初年次に授業負担が偏っているのかもしれないと思われた。次年度の授業配置を検討する際の参考にする。
2023	卒業生調査・就職先調査において、最新のデータを 3 年前に収集したデータと比較した結果、有意に上昇した部分・低下した部分があった（参照：卒業生調査・就職先調査—その分析と考察—）。	満足度が減少した部分が明らかになったことで、授業改善の視点を新たに持つことができた。